

2024年度（2025年 3月 31日現在） 貸借対照表

（単位：百万円）

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
現金及び預貯金	2,298	保険契約準備金	467
預貯金	(2,298)	支払備金	(7)
有形固定資産	35	責任準備金	(459)
建物	(22)	その他負債	5,867
その他の有形固定資産	(13)	共同保険借	(7)
その他資産	6,408	再保険借	(30)
未収保険料	(257)	外国再保険借	(4,498)
代理店貸	(191)	未払法人税等	(28)
共同保険貸	(1)	預り金	(58)
再保険貸	(481)	前受収益	(684)
外国再保険貸	(5,363)	未払金	(399)
未収金	(36)	仮受金	(160)
未収収益	(3)	退職給付引当金	64
預託金	(21)	役員退職慰労引当金	93
仮払金	(51)	賞与引当金	33
繰延税金資産	55	特別法上の準備金	10
		価格変動準備金	(10)
		負債の部 合計	6,536
		(純資産の部)	
		資本金	1,000
		資本剰余金	1,000
		資本準備金	(1,000)
		利益剰余金	262
		その他利益剰余金	(262)
		繰越利益剰余金	((262))
		株主資本合計	2,262
		純資産の部合計	2,262
資産の部 合計	8,798	負債及び純資産の部 合計	8,798

(貸借対照表の注記)

1. 会計方針に関する事項

(1) ① 有形固定資産の減価償却は、定率法により償却しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法により償却しております。

② 自社利用のソフトウェアについては、見込利用可能期間（5年）に基づく定額法により償却しております。

(2) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(3) ① 貸倒引当金は、資産の自己査定基準及び償却・引当基準に基づき、次のとおり計上しております。

破産、特別清算、手形交換所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している債務者に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額等を控除し、その残額を引き当てております。

今後、経営破綻に陥る可能性が高いと認められる債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を引き当てております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を引き当てております。

また、全ての債権は資産の自己査定基準に基づき、管轄部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

② 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。なお、退職給付債務の見込額は、簡便法（退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法）により計算しております。

③ 役員退職慰労引当金は、役員の退職慰労金(年金を含む)の支出に備えるため、在任期間中の職務遂行にかかる対価相当額を計上しております。

④ 賞与引当金は、従業員及び役員に対する賞与の支払に充てるため、当事業年度末における支給見込額を基準に計上しております。

(4) 保険料、支払備金および責任準備金等の保険契約に関する会計処理については、保険業法等の法令等の定めによっております。

(5) 価格変動準備金は、株式等の価格変動による損失に備えるため、保険業法第115条の規定に基づき計上しております。

(6) 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、損害調査費、営業費及び一般管理費等の費用は、税込方式によっております。

なお、資産に係る控除対象外消費税等は仮払金に計上し、5年間で均等償却を行っております。

2. 重要な会計上の見積り

繰延税金資産の回収可能性についての判断にあたり、将来の事業計画に基づく課税所得の発生時期及び金額によって会計上の見積りを行っております。将来の事業計画に基づく課税所得、一時差異の解消スケジュール及び将来の実効税率に一定の仮定を置いて策定しております。

当該見積りは将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、実際に発生した課税所得の時期及び金額が見積りと異なった場合、翌事業年度の計算書類において繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

当事業年度の繰延税金資産の総額は414百万円であります。また、繰延税金資産から評価性引当金として控除した額は358百万円であります。

3. (1) 有形固定資産の減価償却累計額は120百万円であります。

(2) 関係会社に対する金銭債権総額は858百万円、金銭債務総額は3,530百万円であります。

(3) 当事業年度末における支払備金及び責任準備金の内訳は次のとおりであります。

① 支払備金 (単位：百万円)

支払備金（出再支払備金控除前、（ロ）に掲げる保険を除く）	41,868
同上にかかる出再支払備金	41,860
差引（イ）	7
地震保険及び自動車損害賠償責任保険に係る支払備金（ロ）	-
計（イ）＋（ロ）	7

② 責任準備金 (単位：百万円)

普通責任準備金（出再責任準備金控除前）	10,263
同上にかかる出再責任準備金	9,949
差引（イ）	314
その他の責任準備金（ロ）	145
計（イ）＋（ロ）	459

4. (1) 繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳は、前受収益192百万円、責任準備金121百万円であります。

(2) 「所得税法等の一部を改正する法律（令和7年法律第13号）が2025年3月31日に国会で成立したことに伴い、2026年4月1日以後開始する事業年度より、「防衛特別法人税」の課税が行われることとなりました。

これに伴い、2026年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率が28.0%から28.9%に変更となります。この税率変更が財務諸表に与える影響は軽微であります。

5. 金融商品に関する事項は次のとおりであります。

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社は運用にあたっては、運用利回りの向上を図りつつ、安全性、流動性及び資産・負債のマッチングを含め、保有資産のリスク管理に十分な配慮を払い、原則として預貯金及び高格付けの債券を中心とした安全性の高い金融商品で運用し、ヘッジ目的以外のデリバティブ商品及び金融仕組商品への投資は原則として行わない方針であります。

② 金融商品の内容及びそのリスク

当社が保有している金融商品は、主として預貯金であります。
預貯金は与信先の信用リスクに晒されております。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

1) 全般的なリスク管理体制

当社ではリスク管理基本方針を策定し、具体的にリスクの所在とその指標を明示して、早期に対応がとれるようにしております。また、個々のリスクを横断的に管理するため「リスク委員会」を設置し、リスクの状況についての的確に把握し、リスク管理に係る重要な方針を審議・決定しております。

2) 市場関連リスクの管理

市場関連リスクに関しては、金利、株価等の運用環境の変化に対する保有資産の感応度を把握するとともに、資産配分の見直しやリスクヘッジなどによりリスクを適切にコントロールしております。

3) 信用リスクの管理

信用リスクに関しては、与信先ごとに付与された外部格付等を活用して、リスクを把握・コントロールしております。また、全体のポートフォリオに対する各資産・企業グループへの配分リミットを設定し、与信集中を抑制しております。

4) 流動性リスクの管理

流動性リスクに関しては、流動性の高い資産の確保の状況、キャッシュフローの状況、個別金融資産の状況等を把握することにより管理しております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

なお、貸借対照表に計上される金融商品は現金および預貯金のみであり時価が帳簿価額に近似しているため、金融商品の時価等に関する事項の記載を省略しております。

6. 退職給付に関する事項は次のとおりです。

(1) 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に備えるため、退職一時金制度を設けております。なお、当社の退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

(2) 退職一時金制度

① 退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	62 百万円
退職給付費用	7 百万円
退職給付の支払額	6 百万円
<u>退職給付引当金の期末残高</u>	<u>64 百万円</u>

② 退職給付に関連する損益

退職給付費用	0 百万円
--------	-------

7. 1株当たり純資産は、16,222円41銭であります。算定上の基礎である純資産の部の合計額から控除する金額はなく、普通株式の期末株式数は139千株であります。

8. 前受収益については、出再保険手数料のうち翌事業年度以降に対応する金額等を計上しております。

9. 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

2024年度 $\left(\begin{array}{l} 2024年 4月 1日から \\ 2025年 3月 31日まで \end{array} \right)$ 損益計算書

(単位：百万円)

科目	金額
経常収益	311
保険引受収益	9
正味収入保険料	4
支払備金戻入額	5
資産運用収益	56
利息及び配当金収入	22
為替差益	34
その他経常収益	244
その他の経常収益	244
経常費用	148
保険引受費用	△ 1,980
正味支払保険金	7
損害調査費	186
諸手数料及び集金費	△ 2,306
責任準備金繰入額	43
為替差損	88
営業費及び一般管理費	2,129
経常利益	162
特別損失	0
価格変動準備金	0
税引前当期純利益	162
法人税及び住民税	56
法人税等調整額	△ 13
法人税等合計	42
当期純利益	119

(損益計算書の注記)

1. (1) 関係会社との取引による収益総額は9,811百万円、費用総額は19,664百万円であります。

(2) 正味収入保険料の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

収入保険料	37,986
支払再保険料	37,982
差引	4

(3) 正味支払保険金の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

支払保険金	10,201
回収再保険金	10,194
差引	7

(4) 諸手数料及び集金費の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

支払諸手数料及び集金費	3,250
出再保険手数料	5,556
差引	△ 2,306

(5) 支払備金繰入額 (△は支払備金戻入額) の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

支払備金繰入額 (出再支払備金控除前、(ロ)に掲げる保険を除く)	12,125
同上にかかる出再支払備金繰入額	12,131
差引 (イ)	△ 5
地震保険及び自動車損害賠償責任保険に係る支払備金繰入額 (ロ)	-
計 (イ) + (ロ)	△ 5

(6) 責任準備金繰入額 (△は責任準備金戻入額) の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

普通責任準備金繰入額 (出再責任準備金控除前)	△ 616
同上にかかる出再責任準備金繰入額	△ 578
差引 (イ)	△ 38
その他の責任準備金繰入額 (ロ)	△ 5
計 (イ) + (ロ)	△ 43

(7) 利息及び配当金収入の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

預貯金利息	22
-------	----

(8) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳は以下のとおりであります。

法定実効税率	28.0 %
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	7.8
住民税均等割等	0.6
評価性引当額の増減	△ 7.7
その他	△ 2.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	<u>26.4 %</u>

2. 1株当たり当期純利益は、855円62銭であります。算定上の基礎である当期純利益は119百万円で、その全額が普通株式に係るものであります。また、普通株式の期中平均株式数は139千株であります。

3. 関連当事者との取引は、以下のとおりであります。

属性	会社等の名称	議決権の 所有（被所 有）	関係内容	取引の内容 及び科目	取引金額 (百万円)	科目	事業年度末残 高	
親会社 の 親会社	アリアンツ・エスイー	被所有 間接 100%	再保険 取引等	再 保 險 取 引	受再保険料	-	未収受再保険 料など	-
				受再保険金	0			
				受再手数料	-			
				再 保 險 取 引	出再保険料	0	未払再保険料 など	1
					出再保険金	-		
					出再手数料	0		
					運営経費	58		
親会社	アリアンツ・グ ローバル・ コーポレート・アンド・ スペシャルティ・エスイー	被所有 直接 100%	役員の兼 任、再保 険取引等	再 保 險 取 引	受再保険料	3,141	未収受再保険 料など	855
				受再保険金	210			
				受再手数料	762			
				再 保 險 取 引	出再保険料	17,367	未払再保険料 など	3,485
					出再保険金	2,149		
					出再手数料	4,489		
					その他経常収益	30		
運営経費	1,259	未収金	△ 1					
親会社 の 子会社	アリアンツ・リスク・トランスファー アーゲー・チューリッヒ	なし	再保険 取引等	再 保 險 取 引	受再保険料	0	未収受再保険 料など	61
				受再保険金	-			
				受再手数料	0			
				再 保 險 取 引	出再保険料	5,205	未払再保険料 など	186
					出再保険金	4,918		
					出再手数料	126		
					運営経費	31		
親会社 の 子会社	パシフィック・アリアンツ・ジエネラル・イ ンシュランス	なし	再保険 取引等	再 保 險 取 引	受再保険料	3,722	未収受再保険 料など	847
				受再保険金	804			
				受再手数料	452			
				再 保 險 取 引	出再保険料	-	未払再保険料 など	94
					出再保険金	-		
					出再手数料	-		
					再 保 險 取 引	受再保険料		
受再保険金	-							
受再手数料	-							
再 保 險 取 引	出再保険料	-	未払再保険料 など	5				
	出再保険金	0						
	出再手数料	-						
	再 保 險 取 引	受再保険料			12	未収受再保険 料など	138	
受再保険金	2							
受再手数料	1							
再 保 險 取 引	出再保険料	845	未払再保険料 など	200				
	出再保険金	96						
	出再手数料	110						
	運営経費	103			未払金	6		

親会社 の子会社	アリアンツ・オーストラリア・インシュランス・ リミテッド	なし	再保険 取引等	再 保 險 取 引	受再保険料	3	未収受再保険 料など	10					
					受再保険金	76							
					受再手数料	1							
					親会社 の子会社	ファイアマンズ・ファント・インシュランス・カン パニー	なし	再保険 取引等	再 保 險 取 引	出再保険料	-	未払再保険料 など	9
										出再保険金	0		
										出再手数料	-		
親会社 の子会社	ファイアマンズ・ファント・インシュランス・カン パニー	なし	再保険 取引等	再 保 險 取 引						受再保険料	0	未収受再保険 料など	-
										受再保険金	0		
										受再手数料	-		
					親会社 の子会社	ファイアマンズ・ファント・インシュランス・カン パニー	なし	再保険 取引等	再 保 險 取 引	出再保険料	-	未払再保険料 など	-
										出再保険金	-		
										出再手数料	-		

4. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

- (1) 再保険取引料率及び手数料については、資本コストや過去のリスク、社費を考慮した客観的な料率計算方式に基づき決定されています。
- (2) サービス料はコストプラス方式の客観的な算式に基づき決定されています。